

座標: 北緯34度56分57秒 東経138度20分34秒

ウィキペディア

鞠子宿

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

鞠子宿（まりこしゆく、まりこじゆく）は、東海道五十三次の20番目の宿場である。**丸子**とも書く。現在の静岡県静岡市駿河区丸子で、最寄り駅は東海道線安倍川駅。

目次

概要

丁子屋

隣の宿

関連項目

脚注

参考文献



歌川広重「東海道五十三次・鞠子」（初版では「丸子」と表記）^[1]

概要

東海道中でもっとも小さい宿場で、天保14年（1843年）の記録によると、家の数は211軒、旅籠は24軒であったという。東海道伝馬制の制定により、丸子が宿場町となったのは、関ヶ原の戦いの翌年の1601年で、江戸から数えて20番目の宿場町であった。

となりの岡部宿（藤枝市）との間の宇津ノ谷（静岡市駿河区）には昔の街並が、付近には源氏・今川氏・徳川氏ゆかりの史跡が残る。安倍川の丸子橋近くには、高札場の跡があり、宿場町に現存する高札のレプリカが立っている。

名物はとろろ汁で、歌川広重が「東海道五十三次」に描いた丁子屋は有名である。広重の鞠子宿の浮世絵はクロード・モネの連作「積みわら」に構図やグラデーションの使い方など影響を与えた。また、松尾芭蕉も「梅若葉丸子の宿のとろろ汁」という句を詠んでいるほか、十返舎一九は「東海道中膝栗毛」の丸子のシーンでとろろ汁を作中に取り入れている。

丁子屋

歌川広重が描いた丁子屋は、**21世紀**を迎えた現在も営業を続けており、本陣跡から西へ**3分**ほど歩いたところにある。名物・とろろ汁のほか、御膳料理を食することができる。

丁子屋が創業したのは、戦国時代末期の**1596年**で、以来**400年**間場所を変えずに営業している。当初はお茶屋であったと言われる。丁字とは、当時貴重品であった香辛料のクローブのことである。

所在地は、静岡市駿河区丸子七丁目**10-10**。建物は**1970年**（昭和**45年**）に移築されたものである。



丁子屋

隣の宿

東海道

府中宿 - **鞠子宿** - 岡部宿

関連項目

- 松尾芭蕉
- 十返舎一九
- 丸子城（駿河国）



ウィキメディア・コモンズには、**鞠子宿**

(**https://commons.wikimedia.org/wiki/Category:Mariko-juku?uselang=ja**)に関するカテゴリがあります。



歌川広重「隸書東海道・鞠子」

脚注

- ↑ 丸子 名物茶屋 (https://www.adachi-hanga.com/ukiyo-e/items/hiroshige033/)

参考文献



この節には参考文献や外部リンクの一覧が含まれていますが、**脚注によって参照されておらず、情報源が不明瞭**です。脚注を導入して、記事の信頼性向上にご協力ください。（2017年1月）

「https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=鞠子宿&oldid=74354262」から取得

最終更新 2019年9月23日（月） 08:39（日時は**個人設定**で**未設定**ならば**UTC**）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。